

主日礼拝

2026年6月28日 10時20分～

司式:

奏楽:

「神の計画」

『エステル記』では、神の計画が人間の決断と行動を通して実現していくことを示す箇所です。ユダヤ人滅亡の危機に際し、モルデカイはエステルに「このような時のためにこそ、あなたは王妃の位に達したのではないか」と語ります。この言葉は、偶然に見える出来事の背後に神の摂理が働いていることを示唆しています。孤児であり捕囚民の一人であったエステルが王妃となったのは、神がご自分の民を救うために備えられた道であったのです。エステルは危険を承知で王のもとへ進む使命を受け入れます。ここに、神の計画に応答する信仰者の姿が見られます。また、彼女は焦って願いを訴えるのではなく、宴会を設けて時を待ちます。この慎重な行動も、神が最もふさわしい時に事を成し遂げられることへの信頼によるのでしょうか。この箇所は、神が歴史の中でご自分の民を守り、その計画を人々の信仰と決断を用いて実現されることを語っています。

『使徒言行録』は、神の救いの計画が歴史を通して着実に進められてきたことを示している箇所です。パウロは会堂で語り、まず神がイスラエルの民を選び、エジプトから導き出し、荒れ野で養い、約束の地を与えられたことを振り返ります。さらに士師や王を与え、特にダビデを選んで彼の子孫から主イエスを遣わされました。その到来に先立ち、洗礼者ヨハネが悔い改めを宣べ伝え、人々の心を備えました。ヨハネ自身は救い主ではなく、自分の後に来られる方を指し示す者として務めを果たしました。このように神は歴史の出来事や人物を用いながら、ご自身の約束を実現していかれます。人間の成功や失敗を超えて働かれる神の導きは、ついにキリストの到来に至り、すべての人に救いをもたらすという壮大な計画の確かさを示しているのです。

《神の招き》

前 奏 『神のみむねは常に行われ』 J. パッヘルベル
 招 詞 イザヤ書14章24節
 賛 美 歌 59

《神の言葉》

祈 禱 聖霊の照らしを求める祈り
 聖 書 エステル記4章10～5章8節 (旧約754頁)
 使徒言行録13章13～25節 (新約234頁)

子ども説教 詩編33編1～11節 (38頁)
 交読詩編 360

賛 美 歌 「神の計画」 八木浩史牧師

説 教 1-536
 祈 禱
 賛 美 歌

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
 献 金 献金当番
 祈 禱
 主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌 栄 26
 祝 福
 報 告
 後 奏 『神はわが力』 R. ヴィーンホルスト

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
 音響: 映像: